



球美の里だより No.3

球美の里 5 周年記念イベントを開催しました

球美の里が 2012 年 7 月に保養をスタートしてから 5 周年を迎え、昨年 11 月 19 日に『沖縄・球美の里 5 周年記念イベント』を久米島で開催しました。「加藤登紀子さんのコンサート」と、「島のみなさまとの交流と感謝の集い」を行いました。400 名のみなさまが集っていただきました。詳細は本紙 4~5 ページをご覧ください。



『福島とチェルノブイリ 子どもたちの夏の保養』報告会を開催しました

「原発事故から 31 年のチェルノブイリと 6 年の福島で、子どもたちはどのように暮らしているか」をテーマに、昨年 10 月 29 日に東京で報告会を開催しました。久米島でのボランティアに参加した新宿区民の方と、昨夏ベラルーシを訪ねた福島の子（中高生）の発表、福島の子どもの健康状態について黒部信一医師の報告、ベラルーシに同行した広河隆一名誉理事長の報告など盛りだくさんの内容でした。当日取材に来られた社会新報の記者の方が記事にまとめて掲載していただきましたので、詳細はそちらでご紹介します。本紙 6~7 ページをご覧ください。

また、昨年 8 月に新宿区戸塚地域センター 1 階のギャラリーで開催した写真展『球美ぬりにめんそうれ！新宿展』の様子を、本紙 8 ページでご紹介しています。併せてご覧ください。

この報告会と写真展は、2017 年度新宿区 NPO 活動資金助成事業によるものです。

冬休みも子どもたちは球美の里で元気一杯に過ごしました

「この冬休みも、12月23日~30日（84次）、1月3~10日（85次）に球美の里で学童保養が行われました。それぞれ 50 名余の小中学生が、冬でも温暖な久米島の生活を楽しみました。次は 1 月 29 日から母子保養が始まります（86 次）。引き続きみなさまのご支援をお願いします。

球美の里にもサンタさんがきてくれました。サンタさんは久米島高校のお兄さん、プレゼントは久米島のファミリーマートから「子どもたちに」とたくさんのクリスマスケーキでした。ありがとうございます！



新宿区在住の方 同行ボランティアをしていただけませんか

今年度の球美の里の学童保養（6 回）の際の同行ボランティア（各回 2 名）に新宿区から助成金をいただいています。ただいま、新宿区在住の方を対象に、6 回目となる春休み保養（2018 年 3 月 24~31 日）の同行ボランティアを募集しています。球美の里東京本部までお問い合わせください。

Smile Smile

球美の里では、2017年7月下旬～11月（77次～82次）までの間に、218人の子どもたち、38人のお母さんたち、合計256人の保養者が過ごしました。球美の里での子どもたちの様子をご紹介します。

第77次学童保養／2017年7月

さあ、いよいよ夏休みスタート！ 元気いっぱい小学生たちがやってきました。毎日のようにみんなで海へ山へ。初めて見る青い海やいろいろな生き物たちに、子どもたちは大興奮！ 生まれて初めて海に入る子もたくさんいました。施設内の岩山では、毎日のように虫捕りをしました。みるみるうちにみんな真っ黒！ 子どもたちの笑顔いっぱいの一週間でした。



第78次学童保養／2017年8月

夏休み真っさかりの保養です。沖縄の太陽に負けないくらい、子どもたちはエネルギーいっぱい！ 海や川遊びで大はしゃぎでした。ちょうど学生の夏休みと重なり、たくさんのボランティアさんが来てくれました。中には海外から来てくださった方もいて、



英語を教えてもらい、すっかり仲良しに。貴重な体験となりました。



第79次学童保養／2017年8月

夏休み最後の保養です。子どもたちとの交流会を希望してくださったのは、比嘉（ひが）老人クラブのみなさんです。「一緒に遊びたい」とパークゴルフを教えてくださいました。「とっても楽しかった」「また一緒に遊びたい」と子どもたちも大喜びでした。地元のおすもう大会にも出場させていただきました。なんと準優勝でした！ いつも子どもたちをあたたかく迎えてくれる島のみなさんに、感謝の気持ちでいっぱいです。



第80次母子保養／2017年10月

秋になって、ちびっこたちがお母さんと球美の里に来ました。赤ちゃんから小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんまで、みんなとっても仲良しで、元気いっぱいでした。久米島町の運動会に参加させていただき、お友達と一緒に思いっきりかけっこしました。海遊びでは、生まれて初めて海に入る子もたくさんいました。お外では、ダンボールでそりすべりや、スイカ割りもしました。子どもたちは、自分たちで割ったスイカを「あま〜い」とたくさん食べていました。



第81次母子保養／2017年10月

久米島にも秋の気配がただよってきましたが、外はまだ暖かく、たくさん外で遊びました。

球美の里の泥で泥染めをする予定が、いつのまにかどろんこ遊びに。全身泥まみれでも子どもたちはへっちゃらです。海では綱引き大会。お母さんと一緒に、「負けないぞ〜！」と必死で頑張りました。夜は手作りの仮装でハロウィンパーティをしました。リピーターの子の中には、前回までオムツをしていた子が、お母さんのお手伝いまでするようになっていて、子どもたちの成長ぶりを実感する、うれしい回となりました。



第82次母子保養／2017年11月

全員初参加の母子保養で、みんなで大たくさん遊びました。球美の里の岩山でスタンプラリーをし、たくさん探検しました。食欲の秋。球美の里の美味しいご飯やおやつが、子どもたちは大好き！ 思わず笑顔がこぼれます。図書館もリニューアルして、小さな子どもたちにも使いやすくなりました。ママカフェでは、可愛いお手伝いさんたちが迎えてくれました。この保養の期間中に5周年記念イベント(次ページ参照)が開催されました。



第83次母子保養&学童保養／2017年12月

気持ちのいいお天気が続きました。青い海に、お母さんも子どもたちも思わずにっこり。12月なので少し寒い日もありましたが、子どもたちはおかまいなし。海では、ウニやヤドカリ探し、ホテル館の川では、エビやカニとりに夢中でした。短い期間でしたが、たくさん生き物たちに触れ、久米島を満喫した保養となりました。また、今回母子保養と学童保養のミックスで、小学生が小さな子どもたちの世話をしてくれて、スタッフは大助かりでした。



～保養に参加されたお母さんからのお手紙～

「今回、6才、3才、1才の3人の子どもを連れて、参加しました。球美の里で過ごした10日間は、子どもたちにも私にも、一生の宝物をいただいたようです・・・今の福島では、海へ連れていくことも思いっきり野山を駆け回ることもできません。久米島の海で楽しそうに泳ぐ子どもの姿を見て感動しました。『海の水ってしょっぱいんだね!』と6才になって初めて実感した息子。球美の里に来て本当によかったと心から思った瞬間でした。球美の里の中でも野山をお友達と駆け回ったり、虫をつかまえて喜んだり、芝生で転がる姿を見て、これが福島でできたらと思います。それができない今、球美の里の存在はとても大きいです。子どもたちが今できることをさせてもらい、ありがとうございました。」



* 沖縄・球美の里での保養の様子は、球美の里のブログ <http://kuminosato/bog.fc2.com> でご覧いただけます。球美の里のホームページ (<http://www.kuminosato.com>) から入っていただくか、検索サイトで「球美の里保養日記」で検索していただけます。ぜひご覧ください。

〔報告〕 沖縄・球美の里 5周年記念イベント ～島のみなさまに感謝する集いを開催～



気さくな語りを入れながら歌う
加藤登紀子さん。

2017年11月19日、久米島はすばらしい青空が広がり、前日までの悪天候が嘘のようなイベント日和となりました。当日は大勢の島民が参加してくださいました。会場の具志川農村環境改善センターには、開場前から長蛇の列ができ、400人もの人たちがかけつけてくださいました。

イベントの最初に、広河隆一名誉理事長が久米島の皆様にご挨拶をさせていただきました。
「球美の里ができて、5年が過ぎました。2011年3月に福島原発の事故が起こって、子どもたちを保養させたいと考え、受け入れてもらえる施設を日本中探しましたが、一年を通じて受け入れ可能な場所は久米島にしかありませんでした。保養を始めることができたこと、そして、5年間保養を続けることができたのは、久米島のみなさんの応援のおかげです。久米島のみなさま、ありがとうございます」

大田治雄久米島町長も「子どもたちの健やかな成長にお役に立てることが何よりの幸せ」との温かいメッセージをお寄せくださいました。

そのあと、82回目の保養に参加中の子どもたち（未就学児）とお母さんが、球美の里で練習した『チューリップ』の歌と手話を披露しました。子どもたちの一所懸命の姿に、会場のみなさまから拍手をいただきました。続いて、球美の里のスタッフや、82次のボランティアに来てくださっている方々のご紹介もさせていただきました。



開場前から長蛇の列ができました。



子どもたちのパフォーマンス

次は、いよいよ加藤登紀子さんのコンサートです。

登紀子さんは球美の里の設立の時から賛同人を務めてくださり、折々にメッセージも寄せてくださっています。また、以前テレビの仕事で久米島を訪れ、すっかり久米島の海と大地と人々に魅了された登紀子さんは、久米島のみなさんと会うのを心待ちにされていました。

『百万本のバラ』や『知床旅情』など登紀子さんの素晴らしい歌声に会場全体がうっとり。最後のカチャーシーでは、会場のみなさんも一緒に手拍子と踊りで盛り上がり、会場全体があたたかな雰囲気に包まれました。

「日本中のどこに行っても、『福島から来ましたよ』といったら、誰もがあつたかく、『本当に大変ね』と言って、みんなで抱きしめあう日本にしなきゃならないと思います」との登紀子さんの力強い言葉に、会場から大きな拍手が湧きました。

登紀子さんの語りと歌を堪能していただいたあと、お楽しみの福引大会を行いました。1等は何と今話題のAIロボット。島のお子さんに当たりました。そのほか、ニキティキのおもちゃやDAYS JAPANの本、チェルノブイリ子ども基金のカレンダーなどたくさんの景品をご用意し、島のみなさまに喜んでいただきました。

実を言いますと、82次保養にはやんちゃなちびっ子たちがたくさんいました。毎日の食事のとき、1人の赤ちゃんが泣くと次の赤ちゃんも泣くということもたびたびでした。コンサート中に赤ちゃんが泣いたり、ちびっ子が走り回ったりしたら、控室に移動してもらう手はずになっていましたが、ほとんどの子どもたちがおとなしく、登紀子さんの歌を聴いていました。寝ている子どもも会場のキルトの上で、すやすや……。本物の音楽に、子どもたちも聞き入ったのだと思います。

今回の5周年イベントは、島の方々を含めたくさんのボランティアさんが関わってくださいました。何より大勢の方がいらしてくださったことがありがたかったです。島の方から「都合がつかなくて、どうしても行けなくて残念だった」という声も聞きました。また、イベントの後のプログラムで、保養者がバーデハウスに行ったときなど、今まで以上に島のみなさんの温かなまなざしを感じました。

いつも温かく接してくださる久米島のみなさま、ご寄付を寄せてくださる全国および海外のみなさま、多くの方々のご支援を受けて球美の里は保養を続けてこられました。これからもよろしくお願ひします。

※コンサートの様子はブログをご覧ください。http://kuminosato.blog.fc2.com/



イベント終了後、加藤さんが球美の里を訪れ、子どもたちと遊び、カレーと一緒に食べていただきました。

沖縄・球美の里 5周年記念イベント

加藤登紀子コンサート

久米島のみなさまに支えられて、おかげさまで球美の里は満5周年を迎えました。2017年9月末までに3,400人の母子(うち、子どもが2,736人)が久米島で保養をしました。感謝の気持ちを込めてイベントを開催します。

【日時】 2017年11月19日14:00～ (入場無料)
【場所】 具志川農村環境改善センター
【内容】 第1部:加藤登紀子コンサート
第2部:島のみなさまとの交流と感謝のついで

【主催・問い合わせ】 認定NPO法人 沖縄・球美の里
〒901-3111 久米島町字山城799 URL: www.kuminosato.com
TEL: 098-985-8880 EMAIL: info@kuminosato.net

加藤登紀子さんは、球美の里設立者で名誉理事長の広河隆一と長年の交流があります。福島原発で被災した子どもたちを応援したいと、球美の里設立のときから賛同人を務めてくださっています。また加藤さんは久米島の大ファン! かつてテレビの仕事で久米島を訪れて、海の美しさと大地の豊かさと人々の温かさに魅了され、その後、プライベートでも訪ねられたそうです。「久米島で会ったたくさんの方々にもお会いしたいです」と加藤さん。ぜひ加藤さんの歌を聞きにきてください。2部では、球美の里の施設・紹介スライド、ご来場者全員に記念品贈呈などを予定しています。*保養中の子どもたちとお母さんも第1部でパフォーマンス! ※そのほかのお楽しみもご期待を!

2017年夏の保養の様子

(写真左から)
・施設内の岩山でスタンプラリー
・西銘地区の相撲大会に出場
・くめしむわグループの手話教室



久米島も町を挙げて応援してくださいました。改めて感謝申し上げます。

会場にお借りした具志川農村環境改善センターはとてもしっかりした歴史を感じさせる建物でした。建て替えも検討されているということですが、音響、照明、ピアノなど備え付けの器材が、登紀子さん同行の舞台監督が驚いていたぐらい十分な機能を備えていました。

写真は『広報くめじま 11月号』と載せていただいた紹介記事。今年の1月号にイベントの報告記事も掲載してくださいました。ありがとうございます。

「福島とチェルノブイリの子どもたちの夏」報告会のご報告

昨年10月29日(日)に、新宿区で「福島とチェルノブイリの子どもたちの夏」報告会を開催しました。台風の大雨の中、約80名の方にご参加いただきありがとうございました。新宿区民ボランティアの方からは保養ボランティアについて、黒部医師の最近時の福島の子どもの健康について、そして福島の中高生・鈴木姉妹と広河隆一・球美の里名譽理事長(フォトジャーナリスト)のペラルーシ訪問を踏まえての順に報告がなされました。社会新報の記者の方が取材に見え、記事として掲載していただきましたので、ご紹介いたします(2017年11月29日掲載)。
 ■日時: 2017年10月29日(日) 14:00~16:45 ■会場: 新宿区戸塚地域センター7階 多目的ホール

福島とチェルノブイリの子どもたちの夏



↑「球美の里」に休養に来た子どもたちは、久米島の自然の中で仲間と共にさまざまな体験を共有する。(写真提供=球美の里)

保養施設 「沖縄・球美の里」の取り組み

福島第1原発事故で放出された放射性物質による健康被害を防ぐため子どもたちを対象にした保養施設「沖縄・球美の里」は、設立5年目を迎えた。同施設主催の「福島とチェルノブイリの子どもたちの夏」と題する報告会が10月29日、都内で開催された。保養施設の様子や、実際に保養を体験した高校生のお話などを聞いた。(梅林餃子)

大自然の中で健康を取り戻す



黒部信一さん



鈴木木理紗さん(右)と鈴木さやさん

福島原発事故による健康被害を防ぐために、保養が大切であることは、チェルノブイリ原発事故後に認識されている。沖縄・球美の里は、福島第1原発事故で被ばくした子どもたちで、一定期間の保養により、免疫力を回復し、病気になるににくい体をつくることを目的に、2012年、沖縄県の久米島に開設された。球美の里に来た子どもたちは、自然の中で思い切り駆けたり海で泳いだりして遊ぶ。また、沖縄・久米島の歴史を学ぶ時間、アフリカン音楽や手話を学ぶ時間など、さまざまなプログラムも用意され、普段の生活とは違う体験ができる。今回は、17年夏に新宿区の助成金を得て、ボランティアで同行した人々からも報告があった。

区の掲示板を見て参加してみたという女性は、「米軍基地のこと、沖縄の歴史のことを学ぶことができた」と話していた。また、単に同行してよかったというだけでなく「福島は終わって

いなく、伝えるのも自分の役目だ」と語った女性もいた。保養生活は子どもたちにとって楽しい時間だ。だが、やはり近年は体に異常や不安を抱える子が増えている。未来の福島で、いかに子どもたちを育てていくのか、代表であり、いわき市の「たちねクリニック」の顧問医師を務める小児科医師の黒部信一さん(57)は、保養に来る子どもたちについて、15年ごろから「ナメタを訪問後は、国内でも放射線量の特に高いゴスリ州(ホーキ地区)も訪問した。現地の乳製品工場では、現在もセシウムとストロンチウムの測定が行なわれている。学校には、野菜の放射線量を計ったり、学校のどの教室が放射線量が高いかなど、放射線について調べたりする活動がある。2人は、現在の日本の中学生、高校生が放射線と健康について関心を持って話したり、学ぶ機会は少ないという。

訪問先は首都圏から80キロ離れた自然豊かな希望の里という施設。学校単位での利用もあり、1つの町のように規模が大きい。医療の他にセラピー専門のシャグジーやサウナなどさまざまな専用の建物があり、医療棟には医師や看護師ら30人ほどが滞在しているという。かつてチェルノブイリ原発事故後、甲狀腺がんの手術を受けた子どもたちも、現在では子どもとつづつ母となった女性たちも話した。彼女たちの今の心配は、自分の子どもの健康だ。

ナメタを訪問後は、国内でも放射線量の特に高いゴスリ州(ホーキ地区)も訪問した。現地の乳製品工場では、現在もセシウムとストロンチウムの測定が行なわれている。学校には、野菜の放射線量を計ったり、学校のどの教室が放射線量が高いかなど、放射線について調べたりする活動がある。2人は、現在の日本の中学生、高校生が放射線と健康について関心を持って話したり、学ぶ機会は少ないという。

「被曝地に住む子どもたちの今を」東京本部より

まさかの台風接近・・・でも、大雨にも関わらず、たくさんの方が会場に足を運びくださいました。福島からも、県外へ避難されている方々もいらしてくださいました。参加者の方からは、「福島のお子さんたちの発表がすばらしく圧倒的な説得力があった」「ボランティアの皆さんの発表に感動した」「黒部先生の活動をもっと知りたい」「希望が見出せた」「広河さんのお話で保養の大切さを知った」などの感想が寄せられました。ボランティアのみならず、チラシ配布にご協力いただいたみなさま、SNSで発信してくださったみなさま、ありがとうございました。これからも保養を続けながら、被曝地に住み続ける子どもたちの様子を伝え続けていきたいと思います。よろしくお祈りします。



2017年度新宿区NPO活動資金助成事業により、新宿区在住の方が夏休みに久米島にボランティアに行ってくださいました。その方々に体験発表をしていただきました。

チェルノブイリを訪問した鈴木姉妹の発表が参加者の心を打ちました。ペラルーシの訪問には鈴木姉妹の母親とそのほか2組の家族が参加しました。その様子がNHKワールドニュースとBS1で「フクシマとチェルノブイリ『母たちの祈り』」と題して放映されました。再放送があるかもしれませんのでご注意ください。

www.kunimisoai.com

訪問先は首都圏から80キロ離れた自然豊かな希望の里という施設。学校単位での利用もあり、1つの町のように規模が大きい。医療の他にセラピー専門のシャグジーやサウナなどさまざまな専用の建物があり、医療棟には医師や看護師ら30人ほどが滞在しているという。かつてチェルノブイリ原発事故後、甲狀腺がんの手術を受けた子どもたちも、現在では子どもとつづつ母となった女性たちも話した。彼女たちの今の心配は、自分の子どもの健康だ。

ナメタを訪問後は、国内でも放射線量の特に高いゴスリ州(ホーキ地区)も訪問した。現地の乳製品工場では、現在もセシウムとストロンチウムの測定が行なわれている。学校には、野菜の放射線量を計ったり、学校のどの教室が放射線量が高いかなど、放射線について調べたりする活動がある。2人は、現在の日本の中学生、高校生が放射線と健康について関心を持って話したり、学ぶ機会は少ないという。

訪問先は首都圏から80キロ離れた自然豊かな希望の里という施設。学校単位での利用もあり、1つの町のように規模が大きい。医療の他にセラピー専門のシャグジーやサウナなどさまざまな専用の建物があり、医療棟には医師や看護師ら30人ほどが滞在しているという。かつてチェルノブイリ原発事故後、甲狀腺がんの手術を受けた子どもたちも、現在では子どもとつづつ母となった女性たちも話した。彼女たちの今の心配は、自分の子どもの健康だ。



広河隆一さん

「日本に足りないのは怒れる市民」

フォトジャーナリストの広河隆一さんは、16日に、かつて甲狀腺がんの手術をしたウクライナの保養所にいった経験もある人と話す機会を得た。その際、保養の意義についてあらためて認識を深めたという。それは、同じ体験を共有できる仲間と会うということだ。

「かつて甲狀腺がんの手術をした経験を持つ人たちは、一番うれしかったら

夏休み保養の様子を中心に、たくさん写真で保養の様子をお伝えしました。

球美の里ニュース

ドルトムント独日協会代表のシュルターマン容子さん来日

ドイツのドルトムント独日協会は、2015年から球美の里の春と夏の学童保養（計2回）の全額を支援してくださっています。代表のシュルターマン容子さんは、来日されるたびに、忙しい業務の中、球美の里の活動にもご関心を持ってくださっています。2016年秋には球美の里の4周年イベントに参加してくださり、応援のメッセージをいただきました。また、多摩で催されたおしどりマコ・ケンさん（球美の里理事）の講演会にも参加してくださいました。

2017年の秋は、11月17～19日を福島への訪問にあて、現地の視察をされました。さらに球美の里で保養した子どもたちから直接生の声を聞きたいとのご要望をいただいたので、いわき市でお母さん、たらちねのスタッフらも交じえて懇親会を開催しました。

懇親会に参加のみなさんです！



11月23日には東京本部において、たらちねクリニック院長・藤田医師（球美の里で甲状腺検診を担当）のインタビューもされました。ドイツでは、web版新聞記事を毎日読んでおられ、東京新聞で藤田医師の記事（*）をみつけ、ぜひ、インタビューをとかねてから計画されていたとのこと。

*東京新聞 2017年9月19日 web版「いわきにNPO開設のクリニック 患者の不安に向き合う」

今回の懇親会やインタビュー内容を、ドイツで開かれる2018年の3.11イベントで発表し、今後の活動につなげたいとのこと。いつもドイツのみなさまに福島のこと、子どもたちの健康のことを訴えてくださり、多大なご寄付をくださっていることに心より感謝いたします。

『球美ぬりにめんそうれ！新宿展』開催

2017年8月11～17日の一週間、新宿区戸塚地域センター1階のギャラリーで、球美の里の様子を知っていただく写真展を開催しました。開催初日の朝、新宿区のボランティアさんが集ってくださって、見やすくわかりやすい展示は？と試行錯誤しながら、展示をしてくださいました。人通りの少ないお盆時期で、雨模様の日も多かったのですが、近隣で働く方、通りがかりの方、球美の里のボランティアの方が立ち寄ってくださいました。保養に行かれたことのある方も関東のご実家への里帰り中に訪ねてくださいました。ありがとうございました。

これからも球美の里や保養について多くの方に知っていただく活動を続けたいと思います。この展示会は2017年度新宿区NPO活動資金助成事業によるものです。



「子育てを楽しんでいますか？」

たらちね・こども保養相談所では、2018年2月に「子どもを伸ばす家庭の力」というタイトルで、子どものこころの専門家 渡辺久子先生の講演会を開催します。

子育ては楽しいことばかりではありません。イヤイヤ期、赤ちゃん返り、反抗期……、子どもの成長に伴って、親にとってしんどいことも少なくありません。ただ、これは子どもの成長にとって大事で必要不可欠なことだそうです。乳幼児・児童精神科の医師で、ご自身二児の母である渡辺久子先生のお話を聞きにいらっしやいませんか？

◎「子どもを伸ばす家庭の力」

- ・講師：渡辺久子先生（乳幼児・児童精神科医師）
- ・日時：2018年2月4日（日） 13時～15時半（12時半開場）
- ・会場：いわき芸術交流館アリオス 中劇場（福島県いわき市平字三崎1-6）
- ・参加費：無料 ・予約：不要（ただし託児希望の方は事前にたらちね事務局まで要連絡）
- ・問い合わせ・託児申し込み：認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

TEL 0246-92-2526 FAX 0246-38-8031 メールtarachine@bz04.plala.or.jp

ステキな未来をひきよせる覚悟! 第2回 おしどりマコ・ケン

球美の里を支援してくださってるみなさま、いつも本当にありがとうございます! 今年は原発事故から7年、いつの間にか、そんなに経っちゃったか! と驚きます!

原発事故のときにまだ3,4歳だったちびっ子たちは小学校高学年になり、小学生だった子どもたちは高校生に! 中高生だった子どもたちは大学に行ったり働いていたり。

2011年はお子さんが小学生で、食べ物のこと、校庭の測定のことなどで活動していたママたちは、お子さんが高校生になっても、活動されている方々がいます。「先輩ママ」として。原発事故の2011年のときは、あまり気にしていなかったけど、その後、出産してママになって、原発事故の汚染って本当はどのなの? と考え始めたママたちも、少なくないのです。各地の保養を取材していると、保養を希望する方が「代替わり」と伺いますね。代替わりして、案外保養希望者は減ってないのだけれど、けれど、寄付は減っているという現実。キビシー!! 2011年から走り出したママたちは、今も走ってる人が多いけれど、高校生や大学生の母親になった現在「うちら、いつまで『福島の子』って肩書使っているの? こんなおばちゃんゴメン!」とガハハと笑っています。

原発事故のあと、給食ではなく学校にお弁当を持っていったり、汚染がある校庭での体育を見学したり、定期的に福島県外に保養に行ったり、移住をしたり。そういうお子さんは、どんな感じで大きくなっているのでしょうか?

「2011年にクラスでお弁当を持ってきてる子は、初めは5人いたけど、段々減って、3人になって、2人になって、最後は私だけになって。(みんなお弁当を止めて給食にしたの?) ううん、引っ越して行って。福島から避難していったんです。(1人でお弁当を食べていて、どうだった?) ……いろいろ、考えました。お弁当は、お母さんが私のために作ってくれて美味しく嬉しかった。そして、私は守られてると思った。……

けど、仲良しの友達が給食を食べてるのが…お母さんが気をつけないとダメだよって言ったキノコとかを食べてるのが、気になって。」

高校生になった彼女は「自分の考えを表現すること」にハマっているそう。文章だったり、ダンスだったり。今後は楽しみ!

福島から他県の大学に行った女子大生と話したことがあります。その方はSEALDsのTOHOKUに入っていて、そこで知り合いました。

—なんでSEALDsに入ったの?

「私、ずっと福島だったんですけど、生まれて初めて福島を出て暮らして。福島県を出ても、県の県民健康調査の甲状腺検査が定期的にありますよね。けど、私、大学の同級生が、甲状腺検査を受けてないことに気付いたんですね。今までは、福島にいたから、学校の同級生みんな甲状腺検査をしていたんだけど、そうか、こっちに来たら、大学の友達の中で甲状腺検査をしているのは私だけなんだ、と気付いたときに、いろいろ考え始めたんです。」

彼女のご両親には、SEALDsに入ったこと、社会のことを考え始めたことは伝えていない、とのことでした。原発事故があったけど、通常どおり暮らして、原発事故の汚染を怖がる方々のことを良く言っていなかったご両親には、まだ話せない、と。

原発事故のあと、それぞれのご家庭の中で、大きくなったお子さんたち。彼女ら彼らが、いろいろ考え始めるのは、家庭から離れ、友達に触れるときなんだな、と感じます。どうか全てのお子さんが護られますように、と願いながら。お子さんを護りたいと思いながら、力が足りないと苦しむご両親の力になれるように、と思いながら! 球美の里は、今年も絶賛継続中です!

文章・おしどりマコ 針金作品・おしどりケン



2018年も球美の里をよろしくお祈りします!

☆ おしどりマコ・ケンさんのプロフィール ☆

マコとケンの夫婦コンビ。よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属。(社)漫才協会・落語協会会員。2015年7月より沖縄・球美の里理事。

ケンは大阪生まれ、パントマイムや針金やテルミンをあやつる。パントマイムダンサーとしてヨーロッパの劇場をまわる。マコは神戸生まれ、鳥取大学医学部生命科学科を中退し、東西屋ちんどん通信社に入門。アコーディオン流しを経て芸人に。

東京電力福島第一原子力発電所事故(東日本 大震災)後、随時行われている東京電力の記者会見、様々な省庁、地方自治体の会見、議会・検討会・学会・シンポジウムを取材。また現地にも頻りに足を運び取材し、その模様を様々な媒体で公開している。2016年12月に第22回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞。

☆おしどりポータルサイト:

<http://oshidori-makoken.com>

球美の里のチャリティグッズ

沖縄・球美の里のチャリティグッズをご購入いただくと、その代金から必要経費を除いた金額（例：Tシャツ1枚につき1,000円以上）が募金に充当され、活動の支援につながります。皆様のご協力をお願いします。

 マークのグッズは10個/10枚で1割引です。



カラフルロゴ缶バッチ(中・小)

★新製品！ 中1個400円
小1個300円

★直径：中4.5cm、小3.8cm
※裏面はクリップと安全ピン



ピンクロゴ缶バッチ(大)

1個400円※

★直径5.6cm
※裏面は安全ピン

ロゴグッズセット

1セット1,200円
(1,700円のところ)

★ピンクロゴクリアファイル1枚
*白色半透明/A4サイズ
単品販売終了(単品500円)

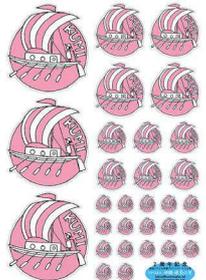
★ピンクロゴ缶バッチ(大)1個

★カラフルロゴ缶バッチ(小)1個

★ピンクロゴステッカー1枚



 “球美の里
オールスター、
たおるハンカチ
★5周年記念新製品！
1枚700円
★22cm×22cm



ピンクロゴステッカー

1枚500円

★A4サイズのシートに
特大・大・中・小のステッ
カーが合計30個

★球美の里記念ポスト
カードのおまけ付き！



ピンクロゴTシャツ

★定番 1枚2,200円

★生地の色 白色・黒色、綿100%
★110cm、130cm、S、M、L



ピンクロゴてぬぐい

★新製品！1枚700円

★綿100%

★タテ33cm×ヨコ90cm

カラフルロゴステッカー

★新製品！

1枚300円

★直径8.5cm

★屋外でもOK

“船と女の子”ロゴ トートバック

★新製品！

1個3,000円

★キャンバス地・綿100% ★タテ
40cm×ヨコ47cm×マチ12cm

★上記は税込み料金です。代金の他、送料実費を申し受けます。

★沖縄・球美の里のホームページのご購入フォームからご購入いただけます。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.kuminosato.com/>

★インターネット環境のない方からのご注文はFaxでお受け付けします。お名前・ご住所・電話番号・ご希望のグッズ名と個数をご記入の上、Faxでお送りください。Fax:03-6205-6140

★ご不明の点がございましたら、東京本部までお電話ください。Tel:03-6205-6139

Information

★ 球美の里では今年1月10日（85次保養）までに2,900名余の子どもたちの保養を行いました ★

球美の里では、2012年7月に福島の子どもたちの保養を始めてから、年に十数回(通年)、1回1～2週間の保養を行ってきました。今年1月10日までに、2,935名の子どもたち（保護者も含めると3,661名）が、久米島の自然の中で保養をしました。この冬休み期間には、学童保養を2回実施し、各回50名余の小中学生

が久米島で楽しい時間を過ごしました。今年度は全16回、約500名の子どもたちの保養を行う計画です（保護者も含めると600名余）。

保養が続けられていますのは、福島の子どもたちを応援して下さるみなさまからのご支援とご寄付のおかげです。心より感謝いたします。

★ ご寄付のお礼とお願い ★

東日本大震災による福島第一原発事故によりもうすぐ7年になりますが、原発事故で被曝した地域に住む子どもたちの保養は、これからますます必要になると考えています。一方で、ここ数年、日本各地で大きな天災が起きており、多くの方が日々の生活の再建に大

変な思いで取り組んでいらっしゃいます。福島原発事故への社会的な関心の低下もあり、球美の里への寄付も少しずつ減少しています。みなさまからの引き続きのご支援をお願いいたします。

◎ご寄付いただいたみなさま（団体からのご寄付・2017年7～12月）

※紙面の都合により団体からのご寄付のみ記載させていただきます。ご了承ください。

愛知蓮蔵院ヨガ、小原 聖子 ギターアカデミー、親地連交流集会、オランダ日本語聖書教会、喜楽会、ゴスペルクロニクル、災害救助犬三重、斎藤道路工業、さくら・市民ネットワーク、311を忘れないin静岡、ジャパン・カインドネス協会、JA久米島 女性部、城南信用金庫、女声合唱団ぶどうの会、真和志第三民生委

員児童委員協議会、チームみつばち、DAYSいかるが、DAYS被災児童支援募金、ドテラ・ジャパン、ドルトムント独日協会、虹を架ける天使の会、長谷幼稚園保護者会、広河隆一写真展事務局、ミズホ、未来の福島こども基金、ゆいま～る那須ショップま～る、らー麵鉄山靠、LUSH LIMITED、保養保護者有志

沖縄・球美の里への寄付口座／クレジットのご案内

ゆうちょ銀行	00160-6-634014	口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
三菱東京UFJ銀行	高田馬場支店 (053) 普通 1231737	口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
クレジットで決済 (PAYPAL)	沖縄・球美の里のホームページ「寄付する」のページからお申し込みいただけます。	

して下さいますよう、お願いいたします。払込用紙を使わない場合は、お礼の連絡や領収書の送付のため、電話・FAXやメールでの連絡をお願いいたします。お手数をおかけしますが、よろしく願います。

***認定NPO法人への寄付の寄付控除について：**認定NPO法人に寄付された場合、所得控除・税額控除の対象になります。球美の里も2015年7月に活動内容が認められて、認定をいただくことができました。控除を受ける場合は領収書が必要となりますので、寄付をして下さった際に球美の里の東京本部からお送りする領収書を保管の上、確定申告をしてください。詳細は地域の徴税窓口か球美の里までお問い合わせください。

*お願い：寄付をして下さった方は、払込用紙に住所・氏名・連絡先の電話番号かメールアドレスを記載

★ 甲状腺検診機器購入にご支援を ★

福島の子どもたちに甲状腺異常や甲状腺がんが増えています。予防のためにも早期発見が大事です。球美の里では、保養のたびに希望者には甲状腺検診を行っています。検診するのは、島根大学の野宗医師とたらちねクリニックの藤田医師です。交替でそれ

ぞれ遠くから時間をかけて検診に来てくださっています。検診の結果は保護者にすべてをお知らせしています。ところが、現在使用している甲状腺検診機器が老朽化により買い替えなければいけない状態です。機器代、約300万円の費用のうち、ネットの呼

びかけを中心としたクラウドファンディングで半分、残りの半分を今までのご支援者を中心に呼びかけたいと思っています。ご協力をいただける方は、

振込用紙のCの項目にチェックを入れてください。どうぞよろしくお願い致します。

★ ボランティア募集 ★

球美の里では、お手伝いをしてくださるボランティアの方を常に募集しています。お手伝いいただきたい内容は、久米島での子どもたちのお世話（保養実施時／引率同行含む）と、東京本部の事務・発送作業のお手伝い

などです。お手伝いいただける方、ご関心をお持ちくださった方は、東京本部までご連絡ください。球美の里のパンフレットや振込チラシの配布のご協力もお願いします。

★ 球美の里のNEWS LETTER 『球美の里だより』3号を発行します ★

球美の里のNEWS LETTER 『球美の里だより』の第3号をお届けします。今号は、昨年10月の新宿区での報告会、同11月の久米島での5周年記念イベントのご報告、チャリティーグッズのご案内など、内容盛りだくさんの内容です。ご一読ください。ご家族や友人にも読んでいただいて、球美の里への支援の輪を広げていただけると嬉しいです。ご意見や感想、今後のご希望などについてもお聞かせください。

『球美の里だより』は、球美の里のホームページでもご覧いただけます（ホームページではカラーで掲載しています）。「『球美の里だより』はホームページで見るので郵送不要」という方は、球美の里東京本部ま

でご連絡ください。どうぞよろしくお願い致します。

☆連絡先：沖縄・球美の里 東京本部

メールアドレス tokyo@kuminosato.net

電話：03-6205-6139 FAX：03-6205-6140

*メールをいただく際には、パソコンからのメールを受信できるアドレスをお知らせください。住所・氏名もご記入くださいますよう、お願いいたします。
◇『球美の里だより』は年数回の発行を予定しています（不定期）。

◇ご寄付くださる方の便宜を考慮して郵便局の払込用紙を同封させていただきましたが、寄付を強要するものではありません。

1月29日に開かれるゴスペルクロニクルコンサートで球美の里の写真展示・チャリティーグッズ販売を行わせていただきます。

◎ゴスペルクロニクル 3周年 Anniversary コンサート

- ・日時：2018年1月29日（月）
19：00～（開場は18：30）
- ・会場：渋谷区文化総合センター大和田
6階 伝承ホール（渋谷駅から徒歩5分）
- ・入場料：3,500円（全席自由）
・詳細：
https://peraichi.com/landing_pages/view/gospelchr

◆チェルノブイリ 32年・福島7年救援キャンペーン◆

4/20（金）19時～（ココネリホール・練馬駅北口）

報告・「たらちね診療所と福島子どもたち（仮）」

鈴木薫（「いわき乗車脳市民測定室たらちね」事務局長）

・「チェルノブイリ子ども基金の救援活動について（仮）」

佐々木真理（「チェルノブイリ子ども基金」事務局長）

詳細は両基金のホームページをご覧ください。内容が一部変更になる場合があります。

（主催）チェルノブイリ子ども基金、未来の福島子ども基金

認定 NPO 法人沖縄・球美の里 NEWS LETTER 『球美の里だより』 No.3

発行 認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 東京本部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-19-7 タックイレブン高田馬場 702 号室

TEL：03-6205-6139 FAX：03-6205-6140 メール：tokyo@kuminosato.net

ホームページ：www.kuminosato.com 保養ブログ <http://kuminosato.blog.fc2.com/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kuminosato.net>

ツイッター https://twitter.com/kumi_no_sato

インスタグラム：<https://www.garow.me/tags/球美の里> ☆インスタグラム始めました☆